

I.はじめに

中期計画の策定にあたって

学校法人高野山学園

理事長 添田 隆昭

学校法人高野山学園では、中期計画を策定するにあたり、2020年度から2024年度までの計画を第1期中期計画とし、次の2025年度から2029年度までの計画を第2期中期計画と位置付けました。

さて、本学園は高野山真言宗を設立母体とし、高祖弘法大師の教えを建学の精神にして設立されました。価値観の多様性を基礎に置く密教の世界観に基づいて、すべての「いのち」の営みを尊び、人間と自然環境との調和と共生をはかり、異文化を理解し、広く社会に貢献できる、人間性豊かで創造性あふれた人材の育成を教育の理念としています。

本学園が運営する高野山大学は、明治19年(1886)「古義真言宗立高野山大学林」として開校し、大正15年(1926)大学令に基づいて単科大学として認可を受け、昭和24年(1949)新制大学として再出発し、今日にいたっています。一方、高野山高等学校も同年「古義真言宗尋常中学林」として開校され、大正5年「私立真言宗高野山中学」と改称し、昭和23年に学制改革によって高等学校となり、現在にいたっています。大学・高校共に開学以来、小規模ながらも地道に教育活動を実践し、大学はこれまで約1万名、また高校も約7千名に及ぶ有為な学徒を社会に送り出してきました。

ところで、現在、学園を取り巻く環境は刻一刻変化しています。とくに少子高齢化により、大学の淘汰は避けられない状況にあると言えるでしょう。そのような中で、どの大学も生き残りを掛けた大学改革に取り組んでいます。またグローバル化の波が押し寄せ、これからの国際化に向けて、海外の大学や研究機関との交流を積極的に進める大学も少なくありません。さらに情報化時代を迎え、従来の教育の在り方や形態が大きく変わろうとしています。

このような中で、本学園では原点ともいえるべき高祖の建学精神に立ち返った教育の実践を目指すことを考えました。大学では、その具体的な取り組みとして、主に一般子女を対象にした教育学科を、令和3年度より河内長野市に開設すべく準備を進めております。この教育学科では、とくに地域社会の各機関に協力を仰いで、さまざまな体験学習を導入し、「いのち」に対する共感力を養成することを教育の特色としています。一方、創立当初からの伝統をもつ高野山上にある密教学科では、本学の魅力で且つ特色となりうるものとして、「修行のできる大学」を打ち出すことにしました。そのため、すべての学生が身体と精神のバランス関係を実践的に学ぶことのできる環境づくりを進める予定です。こうした独自の取り組みを通じて、寺院子弟のみならず、広く一般の学生や社会人学生、さらに海外からの留学生の要望に応え、アジアの知の拠点としての本学の魅力を原点に帰ってアピールしていき

たいと考えております。

なお高校においても、寮生活の環境改善のため寮の新築を計画しており、学習・生活環境の充実、諸活動のための設備の充実に一層努力し、さらなる発展をめざしております。

第1期中期計画では、以上のような本学園の新たな取り組みを踏まえて、中期計画を策定しました。もともと中期計画も定期的に進捗状況をチェックするとともに、適宜見直し等を実施していく予定です。本学園がこれからも広く社会から必要とされる教育機関として一層の発展をできますよう、本学園構成員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

中期計画スケジュール



II.概要

《高野山大学》

建学の精神

高野山大学の建学の精神は「弘法大師の綜芸種智の教育理念」にあります。

弘法大師空海は、「物の興廃は必ず人に由る。人の昇沈は定めて道にあり」（『綜芸種智院式并序』）とされています。これは、人間の昇沈の要は教育にあるという認識を示すものです。

同書において、弘法大師空海は、さまざまな学問・技芸を兼ね備え、多様な現象に対応可能な叡智を備えた人間を育成する総合的な教育の必要性を説き、学ぶ意欲のあるすべての者に教育を受ける機会を与えることを宣言しました。

沿革

高野山大学は1886年に創設された、日本でも古い伝統を有する大学の一つです。文学部に密教学科、人間学科、大学院に密教学専攻、仏教学専攻を置き、世界遺産に指定された豊かな自然環境、歴史的伝統の中で、密教・仏教の精神に基づいた教育・研究を行っています。

教育理念

本学の教育理念は「高野山大学学則」第1条に掲げられています。

それは以下の通りです。

教育基本法及び学校教育法に基づき、広く教養を培い、密教、仏教、人文及び社会に亘る専門の学芸を総合的且つ有機的に教授研究するとともに、弘法大師の綜芸種智の教育理念に則り、人格を淘汰し、学問・文化の伝承と発展に寄与し、社会に貢献する人材を育成する。

人材育成目標

いのちを活かす人になる

この教育理念を体現した人間を育成することが、本学の目標です。具体的には、自らの「いのち」が生かされてあるという事実気づくこと、そして、生かされてある「いのち」なら、それは活かす「いのち」であらねばならないことを自覚することを目指します。この自覚は、自分と違う他者を理解し、その他者を思いやることのできる人となるための第一歩であると考えます。

三つのポリシー

教育目標に関する三つのポリシー

・アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

本学の教育理念である『いのち』の営みを尊び、人間と環境・文化を理解し、人間性豊かで創造性にあふれた人材を育成する」に共感し、密教・仏教の古典に学び、みずから考え行動しようとする、学習意欲の高い学生を受け入れる。

・カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学の教育理念に基づき、密教・仏教の古典に学び、それを実践にいかしていくための広範な知識・技能を基礎的なものから体系的に教授し、最終的に必修科目としての卒業論文作成において丁寧な個別指導を実施し、それまでの学習成果の総合的な発揮を促す。

・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学の教育理念に照らし、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

体系的に学んだ専門的な知識と方法論に基づいて、総合的に問題を解決し新たな価値の創造につなげていく能力が、一定の水準に達したと認められる学生。

生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力を有する学生。

《高野山高等学校》

沿革

高野山真言宗の元で、古義大学林（現・高野山大学）と共に 1886 年（明治 19 年）に設立された。開学当時は高野山真言宗の設置であったが、学校法人高野山学園が設立された後に高野山学園に所属し、高野山真言宗の教えに基づいた教育を実践している。

2015 年 10 月、昨今の多種多様な生徒の学習機会を提供する事を目的に、広域通信制課程設置の認可申請を行い、同年 10 月に文部科学大臣の認可を受ける。

教育理念

三密行を元とした「身のこなし美しく、口にいつもありがとう、意に思いやりの優しさあり」を校訓とし、その実践を根底に指導を行っている。また、「山椒は小粒でもピリリと辛い」をキャッチフレーズとして生徒個々に応じた木目の細かい指導を目指している。

人材育成目標

- ・身のこなし美しく

服装・頭髮検査の徹底により、校内風紀を整えた事で生徒は落ち着いた環境で教育活動に専念出来ている。卒業後は生徒自身がこの校訓を実践する事で、社会環境に溶け込み、他社との共生がスムーズに出来る環境を創出出来るよう指導する

- ・口にいつもありがとう

毎朝の全校朝礼では講堂での瞑想、般若心経の読経、校長の訓話から、心を落ち着けることの実践、般若心経を声に出すことでの積善、校長訓話から校内や高野山内、更には社会時事に及び考える力を養っている。また週に 1 時間は授業（宗教一般）として弘法大師・釈尊のご生涯から感謝の気持ちを学ぶことを実践した。校内では生徒・教職員共に挨拶を励行し、互いへの感謝を口に出すことを実践した。すべての授業では授業の開始時・終了時に教師と生徒がともに合掌しあうことが高野山高校の教育姿勢を示している。文字通り他者に感謝を素直に伝えられるよう指導する。

- ・意に思いやりの優しさあり

「身」と「口」を整え、「意」により他者を思いやる心を学ぶ。常に他者を敬い、思いやる気持ちを持てるよう指導する。

【設置学校】

- | | | |
|-----------|-----|-----------|
| (1) 高野山大学 | 大学院 | 文学研究科 |
| | 文学部 | 密教学科・人間学科 |
| | | 別科 |

【令和元年度在学者数・収容定員充足率】

《高野山大学》

平成31年度在学者数・収容定員充足率

文学部

学科	学年	1年	2年	3年	4年	計
密教学科		22	21	34	35	112
人間学科		2	6	22	17	47
計		24	27	56	52	159

令和元年5月1日現在

収容定員	充足率
200	79.5%

別科

学年	1年	2年	計
別科	2	2	4

収容定員	充足率
60	6.7%

大学院文学研究科

修士課程

専攻	学年	1年	2年	計
密教学専攻		4	8	12
仏教学専攻		0	1	1
計		4	9	13

収容定員	充足率
26	46.2%
16	6.3%
42	31.0%

修士課程（通信教育課程）

専攻	学年	1年	2年	計
密教学専攻		26	118	144

収容定員	充足率
40	360.0%

博士後期課程

専攻	学年	1年	2年	3年	計
密教学専攻		3	0	2	5
仏教学専攻		0	0	1	1
計		3	0	3	6

収容定員	充足率
9	55.6%
9	11.1%
18	33.3%

《高野山高等学校》

平成31年度在学者数

全日制課程

令和元年5月1日現在

学科	学年	1年	2年	3年	計
普通科		30	29	37	96
宗教科		11	7	6	24
計		41	36	43	120

通信制課程

学科	学年	1年	2年	3年	計
普通科		9	13	14 (3)	36 (3)

() 休学者数

【役員等】

高野山学園役員名簿

令和元年5月27日

(役職)	氏 名	備 考
理事長	添田 隆昭	寄付行為第6条1項 (宗務総長)
常務理事	芝田 啓治	寄付行為第8条1項2号 (法人本部長)
常務理事	乾 龍仁	寄付行為第8条1項3号 (大学長)
常務理事	小野 芳幸	寄付行為第8条1項4号 (高等学校長)
理事	安藤 尊仁	寄付行為第8条1項5号 (宗会議長) 学外者
理事	橋本 真人	寄付行為第8条1項6号 (責任役員) 学外者
理事	長谷部 真道	寄付行為第8条1項6号 (責任役員) 学外者
理事	岡部 観栄	寄付行為第8条1項7号 (評議員会選任) 学外者
理事	平岡 英信	寄付行為第8条1項8号 (学識経験者) 学外者
理事	池口 恵観	寄付行為第8条1項8号 (学識経験者) 学外者
監事	吉田 明史	第9条1項 (理事会候補者選出・評議員会同意・理事長選任) 学外者
監事	片山 弘文	第9条1項 (理事会候補者選出・評議員会同意・理事長選任) 学外者
監事	村主 弘禪	第9条1項 (理事会候補者選出・評議員会同意・理事長選任) 学外者

【教員数】

《高野山大学》

高野山大学教員の職務・学位・年齢構成、職階別教員数・比率、一人当たり学生数等
 ※本学における密教とスピリチュアルケア、また人文学等の領域は、重層的に組み合わさっていますので、それぞれの年度の学生に応じて、以下の所属学科等の枠を超えて教育・指導にあたっています。

令和元年5月1日

所属学科等	職階	職名	氏名	取得学位	年齢構成
人間学科	学長	教授	乾 龍仁	修士	60代7名
密教学科	副学長	教授	奥山直司	修士	
密教学科	図書館長	教授	トーマス・ドライライン	修士	
密教学科		教授	前谷 彰	博士	
教職課程		教授	戸來知子	修士	
人間学科		特任教授	伊藤佳世子	修士	
人間学科		准教授	上野和久	修士	
密教学科	副学長	教授	佐藤隆彦	修士	50代5名
密教学科	大学院委員長	教授	松長潤慶	博士	
密教学科		教授	南 昌宏	修士	
教職課程		教授	山脇雅夫	博士	
人間学科		教授	森本一彦	博士	
密教学科		准教授	野田 悟	博士	40代5名
密教学科		准教授	土居夏樹	博士	
人間学科		准教授	森崎雅好	修士	
密教学科		准教授	浜畑圭吾	博士	
密教学科		講師	櫻木 潤	博士	
人間学科		講師	坂口太郎	博士	30代1名

職階別教員数

職 階	教員数	教員比率
専任教授	11 (※うち特任教授1)	15.1%
専任准教授	5	6.8%
専任講師	2	2.7%
非常勤教員	55	75.3%

専任教員一人当たりの学生数

文学部・別科・大学院（通信を除く）159名：専任教員18名→教員1人当たり学生約9人

文学部・別科・大学院（通信を含む）304名：専任教員18名→教員1人当たり学生約17人

《高野山高等学校》

高野山高等学校教員の職階・年齢構成

令和元年5月1日

所属等	職階	職名	氏名	年齢構成
全日制課程・通信制課程	校長	教諭	小野芳光	70代1名
全日制課程普通科		教諭	安井史郎	60代2名
通信制課程普通科		教諭	河西正之	
全日制課程普通科	教頭	教諭	松井輝能	50代3名
通信制課程普通科	教頭	教諭	栗林良次	
全日制課程普通科		教諭	前田仁史	
全日制課程普通科		教諭	今井邦夫	40代6名
全日制課程普通科		教諭	富田向真	
全日制課程普通科		教諭	塩崎良樹	
全日制課程普通科		教諭	林 秀行	
全日制課程普通科		教諭	山本七重	
全日制課程普通科		教諭	荒木栄三	
全日制課程普通科		教諭	榊原啓優	30代1名
全日制課程普通科		教諭	松本貴寛	20代5名
全日制課程普通科		教諭	船橋真亜子	
全日制課程普通科		教諭	石田 進	
全日制課程普通科		教諭	上島 甲	
通信制課程普通科		教諭	大藤あずさ	

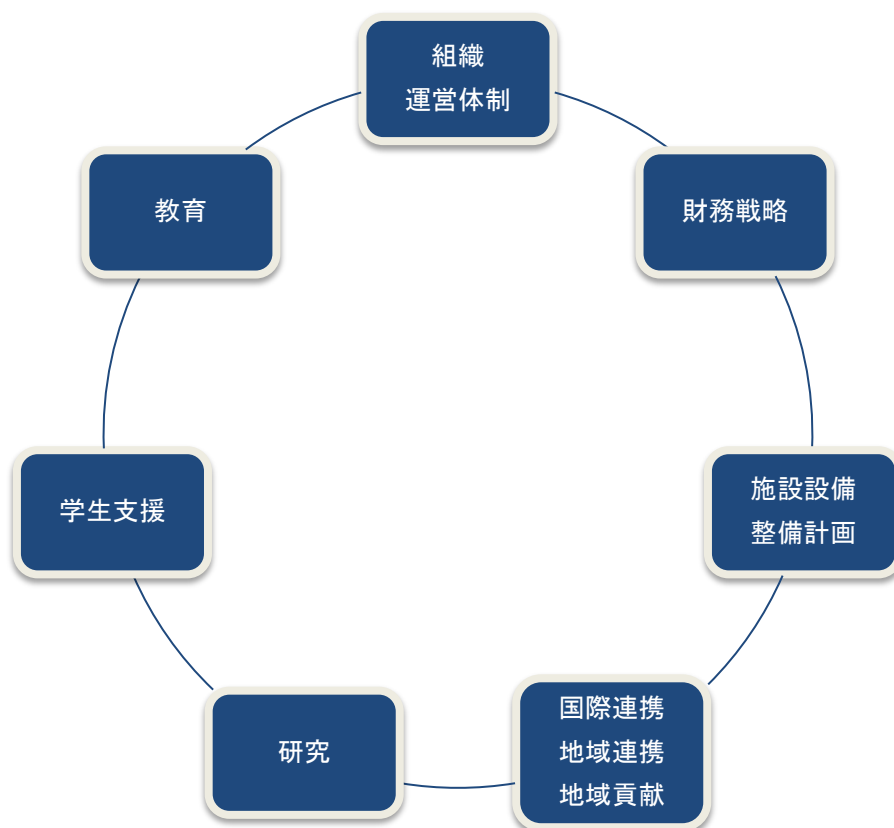
職階別教員数

職 階	教員数	教員比率
校 長	1	3%
教 頭	2	6%
教諭（専任）	15	47%
非常勤講師	14	44%

Ⅲ. 中期計画

《高野山大学》

中期計画概念図



1. 教育

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				2020	2021	2022	2023	2024	
1	教育の質的保証の充実	教育の質的保証システムの効果的運用	PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることにより、新設の教育学科を含む全学において教育の質的保証システムの効果的運用を図る	①既存の学部・学科における教育の質的保証の徹底 ②新設学科における教育の質的保証システムの確立	既設学部・学科の質的保証の徹底				
					新設学科の質的保証システムの確立				
2	密教学科の充実	教育学科の新設に合わせて、密教学科の教育のさらなる充実を図る	①留学生受け入れプログラムの開発と「国際仏教学コース」（仮称）の設置 ②教科書の作成 ③教員の適切な配置を含む教育内容の見直し	留学生用のプログラムとコース					
				教科書の作成					
3	教育学科の新設	2021年度に教育学科を新設し、本学の教育に教員養成課程を加えて、教育内容の充実を図る	①教育学科新設に向けた準備 ②本校および他校との教育連携に向けた準備と実行 ③新設学科における教育の推進と学修成果の検証	学科新設の準備					
				教育連携の準備と実行					
4	教育力の強化	初年次教育・キャリア教育の提供	初年次教育とキャリア教育を充実させ、学生の基礎学力、コミュニケーション能力等の涵養を図る	①スタディスキル、専門教育の導入、チューテントスキル等初年次教育の充実 ②適性診断の実施、キャリア教育の推進		初年次教育の充実			
						適性診断、キャリア教育の推進			
5	アクティブラーニングと遠隔教育のためのプログラム開発	アクティブラーニングと遠隔教育の実施に必要な教育プログラムの開発・導入を目指す	①ICTを活用したアクティブラーニング・遠隔教育の手法の開発 ②各学科におけるアクティブラーニング・遠隔教育の導入			ICTを活用した教育手法の開発			
						アクティブラーニング・遠隔教育の導入			
6	地域社会との連携	地域社会と連携しながら、その特性に学びつつ諸課題の解決に取り組む教育を展開し、地域社会に役立つ人材の育成を目指す	①高野町とその近隣地域を対象とする連携の強化 ②河内長野市とその近隣地域を対象とする連携の推進			高野町とその近隣地域			
						河内長野市とその近隣地域			

2. 学生支援

		中期目標		中期プラン				
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				2020	2021	2022	2023	2024
1	修学支援の充実	学生の修学支援の充実を組織的に取り組む	①奨学金制度・授業料減免制度の充実とアナウンスの徹底 ②学生向け教科書（入門書）の作成 ③オフィスアワーの充実 ④大学院生によるTA制度の充実	奨学金制度・授業料減免制度				
				入門書作成				
2	配慮を必要とする学生へ学習支援を充実	配慮を必要とする学生の修学支援（学習支援・生活支援）を、教員と学生サポート課とカウンセラーが協力しておこなう	①カウンセリングの充実 ②カウンセラーとの連絡緊密化 ③教職員向け研修会の実施	オフィスアワーの充実				
				TA制度の充実				
				カウンセリングの充実				
				カウンセラーとの連絡緊密化				
				研修会の実施				

3	学生生活支援の充実	学生が楽しく充実して生活を送るための支援を拡充	学生の修学について生活面を含めてサポートしていく	①学生の生活支援について学生サポート課の相談窓口機能を強化 ②学生アドバイザー制度、オフィスアワーの充実 ③学生がリラックスできる空間を学内に設置 ④学生寮の整備	相談窓口機能を強化 アドバイザー制度、オフィスアワーの充実 学生用空間設置計画 学生寮整備計画	実施 実施				
4	就職支援の充実	就職支援の充実	キャリア教育、職業感の養成、就職支援をおこなう	①就職ガイダンスと就職案内の実施 ②インターンシップ、キャリアアップ講座の実施 ③求人情報の提供	ガイダンス・案内の実施 インターンシップ、キャリアアップ講座の実施 求人情報の提供					
5	退学者・休学者の防止対策	退学者・休学者の人数を減らす	教員、学生サポート課、カウンセラーが協力して退学者・休学者を一人でも減らすように努力する	①オリエンテーション、初年度教育の充実 ②学生アドバイザー制度の充実 ③教員、学生サポート課、カウンセラーとの連絡緊密化とそれを受けて各部署との情報共有	初年度教育の充実 学生アドバイザー制度の充実 各部署との情報共有					

3. 研究

		中期目標		中期プラン						
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ						
				2020	2021	2022	2023	2024		
1	研究成果の国内外への発信	研究の高度化の推進	個人研究、グループ研究を組織的に支援する体制の整備を目指す	①個人研究を支援するための制度の検討・実施 ②研究所を中心にグループ研究を推進する体制を再構成 ③研究ブランドの育成、2019年度に終了した私立大学研究ブランディング事業の継続発展	個人研究支援					
				グループ研究の推進 研究ブランドの育成						
2	大学評価の向上	研究成果を国内外に発信し、大学評価の向上を目指す	①学術論文投稿数の増加対策の検討・実施 ②高野山アーカイブの継続・展開 ③出版助成の充実	学術論文投稿支援						
				高野山アーカイブの継続 出版助成の充実						
3	研究成果の社会還元	産官学連携における研究貢献	宗門・地方自治体・企業・他大学の要求に応える研究を目指す	①高野山ブランドの創出・展開 ②博学連携、高野山内古文書・聖教調査の実施 ③公開講座の実施	高野山ブランド					
				博学連携・高野山内調査 公開講座の実施						
4	外部資金を獲得するための支援体制の構築	研究支援体制の充実	外部資金獲得の申請を奨励し、獲得を目指す	①外部資金獲得の申請および獲得のための支援体制の構築 ②外部資金獲得委員会の活動活発化	支援体制の構築					
				活動活発化						

4. 国際連携、地域連携・地域貢献

		中期目標		中期プラン						
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ						
				2020	2021	2022	2023	2024		
1	地域社会の発展への寄与	地域社会からの信頼の獲得	地域コミュニティの中核的な存在になることを目指す	①自治体行事への積極的な学生参加 ②高野街道研究プロジェクトの検討 ③高野山地図アプリの充実 ④災害時の地域との連携を推進	自治体行事への学生参加 高野街道研究検討 高野山地図アプリの充実 地域との連携推進					
2	産官学民連携による社会的課題対応	研究成果の社会還元	地域社会・産業・行政との連携の中で社会的な課題の解決を目指す	①自治体等との包括連携の推進 ②高野山学の発展的展開 ③産官学民連携事業の推進 ④高野山大学特任マイスター制度の推進	包括連携の推進 高野山学の発展的展開 産官学民連携事業の推進 マイスター制度の推進					
3	社会貢献活動	大学の社会的責任	寺院住職のリカレント教育大学における研究成果の社会還元や弘法大師の思想に基づく人権思想の普及を目指す	①寺院住職リカレントプログラムの開講 ②公開講座の開催 ③大阪万博への参加準備 ④人権教育および人権啓発活動の推進 ⑤施設設備の貸し出し	リカレントプログラム開講 公開講座開催 万博準備 人権教育・人権啓発活動推進 施設設備の貸し出し					
4	留学生受け入れ	留学生受入強化と生活サポートの整備	留学生を積極的に受け入れるとともに、受け入れた留学生の満足度を高めることを目指す	①留学生受け入れ方針・戦略の再検討 ②留学生向け広報の整備・検討 ③留学生受け入れプログラムの充実 ④留学生のサポート体制の充実	受け入れ方針・戦略の再検討 広報の整備・検討 プログラムの充実 サポート体制の充実					
5	国際社会で活躍できる人材の育成	グローバル人材の育成	国際社会で活躍することができる人材を育成する。あわせて、日本文化を海外で発信する海外開教師等の人材育成を目指す	①英語プログラムの強化 ②留学生の就職支援の強化 ③海外研修プログラムの整備拡充	英語プログラムの強化 留学生の就職支援の強化 海外研修プログラムの整備拡充					

5. 施設設備整備計画

		中期目標		中期プラン						
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ						
				2020	2021	2022	2023	2024		
1	施設設備の修繕計画の策定	修繕計画の策定	時期・費用の明確化	①必要な修繕の把握 ②修繕計画の策定および予算措置の実現 ③必要に応じた修繕計画を見直し	必要な修繕の把握 修繕計画の策定・予算化 修繕計画の見直し					
2	固定資産のスリム化	固定資産の最適化・流動化	遊休資産（黎明館、加行道場、大学桜寮、弁天寮、教職員社宅、大園院前駐車場等）の多角的な活用方法と活用の見込みのない資産処分の検討	①施設設備（黎明館、加行道場、大学桜寮、弁天寮、教職員社宅、大園院前駐車場等）の現状の把握 ②各施設設備の活用方法の検討 ③方針決定後、順次実施	現状の把握 各施設設備の活用方法検討 実施					

6. 財務戦略

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				2020	2021	2022	2023	2024	
1	学生生徒納付金 安定的確保	2024年度までに定員充足 100%を達成し、定員増を検討する	①密教学科…寺院関係者中心として定員充足を目指す ②教育学科…一般高校生中心として定員充足を目指す		寺院後継者入学強化				収容定員見直し
2	帰属収支 改善	外部資金増額	①特別寄付・一般寄附の増額 ②補助金増額 ③科研費受給増 ④資産運用	①R1(2019)年度外部資金獲得委員会により寄付制度の整備開始、R2(2020)に完成とし、3ヶ年で特別寄付・一般寄付を2018年度比130%を目指す	寄付制度整備	寄付広報強化			
				②外部資金獲得委員会によりH30(2018)より項目抽出実行中、R2(2020)年度に取り組み項目を策定、2023までに受給項目の増加を目指す ③科研費申請100%の呼びかけを2019年度開始、2021年度までに達成する 受給目標80%は2024年度までに達成する ④2021年度までに利率の良い定期預金への乗り換え	項目抽出	取り組み開始			
3	個人研究費の適正化	個人研究費規定強化・研究費の適正化	R2(2020)年度に個人研究費規定を見直し、科研費運用増と同時に運用厳格化	個人研究費規定		厳格運用開始			
4	予算制度の見直し	新たな予算制度の構築	①2021年度までに新予算制度策定、改善運用 ②新予算制度による運用開始		新予算制度案策定				

7. 組織・運営体制

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				2020	2021	2022	2023	2024	
1	大学評価による恒常的な教育の質向上の推進	内部質保証システム及び全学的な情報の利活用の整備	2026年度からも大学基準協会から適合評価を受けることができるよう進めていく	必要な改善・改革の促進	改善・改革				
2	教職員の 人件費と 評価制度	給与体系の見直しと評価内容の整備	教職員に対する評価制度を導入する 現行の年功給体系を見直し、評価結果を処遇に反映し、仕事への動機づけを促進する体系に改める	①自己評価・自己点検の検討、実施準備 ②新給与体系の評価制度の導入 ③実施準備	自己評価・自己点検検討の実施準備		評価制度の導入		
3	自然災害・健康被害の危機管理	自然災害・健康被害に関する対策の充実	被害を最小限に抑え、教育機関としての事業が継続できるよう、自然災害・健康被害の対策の充実を図る	①災害時対応マニュアルの見直し 新型コロナウイルスの健康被害を含む ②防災用備蓄品等の見直し ③学外機関・団体との協力体制の構築	災害時対応マニュアルの見直し				
4	事務組織の再編成	事務組織の課題及び整理	新学科の設置に伴い事務部門の統合・再編を行い、一層の効率化を図る キャンパスの所在が3地域となるため、人事計画に則り各箇所での事務部門独立性と全体の本部機能の充実を図る	①事務組織の課題の洗い直しと再編 ②人事計画に則り、各箇所での人事配置と適正規模の判断 ③配置転換と本部機能の充実	課題の洗い直しと再編				
				人事配置と適正規模の判断 配置転換と本部機能の充実					

《高野山高等学校》

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				2020	2021	2022	2023	2024	
1 2 3 4	高校運営	上部組織関連組織との連携	高野山真言宗宗団・高野山学園との連携強化	宗会・常務理事会 理事会・評議員会					
			同窓会組織との連携強化	同窓会全国支部総会					
			学校評議員会組織の編成と運営	学校評議員会	委員選任 規則策定	第1回 評議員会 開催	第2回 評議員会 開催	第3回 評議員会 開催	第4回 評議員会 開催
		内部組織の活性化	定例職員会議の開催 校務分掌による業務形態	高校再生委員会 校務分掌・各種委員会					
5 6	大学との連携	教員出講	高大連携の推進	大学教員の本校への出講 高校教員の大学への出講	教員出講 大学⇄高校				
事業の共催		広報事業の共同開催	学生生徒募集事業の共催	教育講演会共催 事業企画と開催					
7 8 9 10 11 12	全日制課程	教育活動の充実	【授業内容の充実】 基礎学力の定着を図るため、教科書に対応した問題集を活用し、繰り返し学習を推進	基礎学力定着ツールや教科書対応問題集を作成する	目標の継続実施・年次での内容、と次年度への反映		方法の検討		
【教科指導の向上】 校外学習を導入し、見学・体験によって理解を深め、関心を高める			校外学習の企画・立案をし、その為に必要な調査を実施する	目標の継続実施・年次での内容、と次年度への反映		方法の検討			
【生徒の学力向上】 国語・数学・英語において学習指導の実施 考査前の質問教室 習熟度別の実施			習熟度別学習プログラムを策定し、考査前生徒指導も積極的に実施する	目標の継続実施・年次での内容、と次年度への反映		方法の検討			
生徒支援の充実		【学校行事の活性化】 体育大会・文化祭において、生徒会及び実行委員を中心とした生徒の自治的活動の活性化を図る	学校行事主催者との連携と生徒自治活動の検証を実施する	目標の継続実施・年次での内容、と次年度への反映		方法の検討			
		【部活動の活性化】 ・各コースの教育課程に学校設定科目(理論・実践)を導入 ・対外試合等の積極的実施	各クラブ活動へのサポートを強化し、実績の情報を内外に発信する	目標の継続実施・年次での内容、と次年度への反映		方法の検討			
進路指導の充実		【ガイダンスの充実】 ・大学・専門学校の教員による進路ガイダンスの開催 ・入試に向けた補習授業の導入	内外から進路に関する情報収集の徹底と入試前補習授業を開講する	目標の継続実施・年次での内容、と次年度への反映		方法の検討			

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				2020	2021	2022	2023	2024	
13	教育活動の充実	【授業内容の充実】 ・基礎学力の定着を図るため、教科書・メディア学習を活用した学びを積極的に進める ・ICT教育の導入、遠隔授業の導入をし学習指導を行う	各種教材の検証と改正新学習指導要領への対応 ICT教育の研究を深め法令等の確認を行う	目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				導入に向け研究調整	試験的導入及び検証	導入及び検証	導入及び検証と次年度への反映		
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
14	通信制課程	【教科指導の向上】 生徒の家庭学習状況を随時把握し、各種通信手段を使って指導できる環境の整備と実施	インターネットの利用など、各個人に発信できる教育環境を研究・整備する	目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
15	通信制課程	【生徒の学力向上】 ・学習センターを利用して、生徒への直接指導 ・サポート校との連携による、学力の定着や向上及び受験指導	一人一人に寄り添う指導個別プログラムの作成 サポート校との情報の共有や生徒の状況の把握	目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
16	生徒支援の充実	【学校行事の活性化】 ・全国高等学校通信制教育研究会との連携から各種行事への積極的な参加 ・校外学習など、参加型の行事を充実させ生徒の自主的な活動を促す	全通研・近通研との連携 各種団体との協力体制の確立と生徒の自主性の指導	目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
17	進路指導の充実	【ガイダンスの充実】 ・大学や専門学校、企業の各種説明会の積極的案内	内外から進路に関する情報収集の徹底と告知	目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
18	進路指導の充実	【受験指導】 ・サポート校との連携による、学習指導や受験指導の充実	サポート校との情報の共有や生徒の状況の把握	目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
				目標の継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映					
19	継続事業 新規事業	・スクールバスの運行 ・国際バカロレア ・中国上海朝陽義塾学校関連	事業内容の年次検証と次年度への反映	運行方法について毎年次検討					
				開設準備	導入				
				開設・生徒受入	受入				
20	新規事業	・国際バカロレア認定申請開設 ・中国上海朝陽義塾学校生徒受入	事業内容の年次検証と次年度への反映	認定申請	コース再編 変更手続き	導入			
				生徒受入					
21	生徒募集活動	従前の生徒募集(全日制・通信制) 新規生徒募集	・志願者・入学者確保のための広報活動の充実 ・吹奏楽コース ・国際バカロレア ・中国上海朝陽義塾学校関連	過年度実績検証と新規市場模索					
				実績検証と新顧客	顧客媒体拡大検討				
22	生徒募集活動	新規生徒募集	○体験入学・入寮の充実 ○資料請求DBの構築 ○募集イベントへの参画 ○HP・SNSの活用	現状把握・顧客と市場	顧客媒体拡大検討				
				現状把握・顧客と市場	顧客媒体拡大検討				

		中期目標		中期プラン					
項目		目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
					2020	2021	2022	2023	2024
23	特色ある教育活動の模索	教育改革特別事業の展開	経常費補助金「教育改革推進特別経費」複数採択を目指して授業内容の検討を実施する	特色ある教育プログラムとして既に補助対象事業に採択されている「四国遍路」は継続実施し、併せて他のプログラムを模索する	・教育相談体制の整備 ・体験活動の推進 2項目採択	・教育相談体制の整備 ・体験活動の推進 ・外部人材活用の推進 3項目採択	・教育相談体制の整備 ・体験活動の推進 ・外部人材活用の推進 3項目採択	・次世代を担う人材育成 ・教育相談体制の整備 ・体験活動の推進 ・外部人材活用の推進 4項目採択	・次世代を担う人材育成 ・教育相談体制の整備 ・体験活動の推進 ・外部人材活用の推進 4項目採択
24	施設・設備の整備事業	男子寮改築事業	木造平屋造新築工事 既設建物解体工事	固定資産の耐用年数経過分の修繕計画策定 予算編成及び補助金事業登録の調整	事業着手 補助金申請	事業完結 実績報告 築1年 建物検査	築2年 建物検査	築3年 建物検査	築4年 建物検査
25		3号寮改装整備	女子寮への移行 一部改装		一部着手 予定				
26		校舎棟耐震補強	校舎棟西側2階		耐震診断 評価策定	補助金申請 事業着手 予定	事業完結 実績報告		
27		校舎棟各所改修	玄関・便所改修工事		一部着手 予定	補助金申請 一部着手 予定	事業完結 実績報告		
28		新規設備取得	ICT教育の導入		導入に向けての調査	補助金事業登録	導入・補助金申請	実績報告	
29	固定資産の新規取得と除却口			現状把握	修繕計画	予算編成			
30	高野町との連携	防災	防災計画・災害対策への参画	災害時の避難場所の提供や、町防災計画への参画	災害時の避難場所				
31		事業参画	町主催イベントへの参画	町主催イベントへの参画	イベント会場提供				